



～地名の由来～



その名の由来をひもとけば、街は古の姿を現し
私たちは積み重ねた時の落葉の上にたつことを知る

シリーズで区内の地名を紹介しています

《勝島(かつしま)》

昭和18年(1943)、海軍省によって浜川の海岸が埋め立てられた場所で、戦勝の意味を込めてその名がつけられたといわれる。

《鎧町(よろいちょう)/鎧ヶ淵》

天分7年(1538)上杉憲政が北条氏康とこの地で戦い、多くの鎧武者たちが討ち死にして川を埋めたといういい伝えから鎧ヶ淵と呼ばれるようになったといわれている。



《山中(やまなか)》

森に囲まれていたために山中とよばれるようになったという。また、盗賊山中段九郎がここに住んでいたからという説もある。

《倉田(くらた)》

昔、大井郷の蔵があったために、その名がついたといわれる。

《三ツ又(みつまた)》

かつての上立会橋と中立会橋をわたる池上道が合流する地点。三叉路になっていたため三ツ又と呼ばれた。